練習問題　2

問１

次の文は経済諸量のフローとストックに関するものである。A～Ｅに入る語句の組み合わせとして正しいものはどれか。【国家Ⅱ種・平成 2 年度】

経済諸量の中には、一定期間についてその大きさが把握される量と一定の時点における存在量としてとらえられる量とがある。前者はフローといわれ、たとえば（A）がある。後者はストックといわれ、たとえば（B）がある。経済分析において、それらのどちらかに重点が置かれるということがある。利子率について見ると、（C）が可能になるためには、まず（D）がなければならず、利子率はその両者を均衡させるものとして定まるというのが元来の古典派の考え方で、これはフローに重点を置いた考え方である。これに対して（E）は、利子率は貨幣量と貨幣を手元に保持しておきたいという選好状態との関係から定まるとしたが、これはストックに重点を置いた考え方であるといえる。

１	マネー・サプライ	ＧＮＰ	貯蓄	投資	ケインズ
２	ＧＮＰ	マネー・サプライ	所得	投資	マルクス
３	マネー・サプライ	国民所得	投資	所得	ケインズ
４	国民所得	ＧＮＰ	貯蓄	所得	マルクス
５	ＧＮＰ	マネーサプライ	投資	貯蓄	ケインズ

問２

経済学ではフローの概念とストックの概念を区別することが重要である。フローの概念にあたるものとして、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選らべ。【中小企業診断士】

ａ消費ｂ資産ｃ所得ｄ国富

１　ａとｂ
２　ａとｃ
３　ｂとｄ
４　ｃとｄ

問３（選択肢は変わっています）

スタグフレーションの発生とともに、それまでのケインズ経済学に変わってマネタリズムやサプライサイドの経済学が注目を集めるようになった。次のア～エのうち、マネタリズムとケインズ経済学の主張を正しく組み合わせているものはどれか。【国家公務員Ｉ種、教養試験・改】

ア　生産要素の効率的利用によって民間部門の高い税率や不公平な租税構造の改善および減税政策の実施と政府支出の抑制によって民間部門の活力を回復させる政策をとるべきである。

イ　政府の財政支出政策では除去できない失業があり、むしろ政府は本来安定的な民間部門に対して、経済成長に見合った適正な通貨供給を保つなど金融政策を重視すべきである。

ウ　有効需要の不足によって非自発的失業は発生するので、有効需要を増やし雇用を改善するためには消費支出、投資支出の拡大によって有効需要創出策をとるべきである。

エ　国民所得の増大とその分配の平等化は経済的厚生を増加させるので、最大の経済的厚生と完全雇用の実現をめざして政府は独占を適切に排除していく政策をとるべきである。

	マネタリズム	ケインズ経済学
1	イ	エ
2	ア	イ
3	ア	ウ
4	ア	エ
5	イ	ウ

問４（選択肢は変わっています）

経済理論に関する記述として正しいものはどれか。【国家Ⅱ種・平成 4 年度・改】

１　ケインズ政策は、1929 年の恐慌の原因が企業の生産能力の不足にあるとし、投資意欲を刺激することにより生産のボトルネックを解消して国全体の生産を増加させようとする考え方である。

２　サプライサイド・エコノミックスは、公共事業など財政政策によって景気の動向や経済成長、雇用の状態など国民経済の動きを調整しようとする考え方である。

３　リカードの比較生産費説は、貿易による国際分業がなぜ成立するかを明らかにするもので、各国は自国内で生産費が相対的に低い財に特化し、他の財は輸入する形で貿易するのが各国にとって最も利益があるとする考え方である。

４　アダム・スミスに代表される古典派経済学は、市場メカニズムでは効率的な資源配分が行われない場合があるので、補助金を支出するなど政府の積極的な介入が必要であるとする考え方である。

５　マネタリズムは、経済活動のうち需要面より供給面を重視し、企業活動に対する減税

や政府規制の緩和によって民間部門の生産力を向上させようとする考え方である。

問５（選択肢は変わっています）

ケインズ学派とマネタリストの経済政策の考え方に関する記述中の空欄A、B、E～Gに当てはまる用語の組み合わせとして妥当なものはどれか。【国家Ⅱ種・平成 6 年度】

マネタリストはケインズ学派とは対照的に、（A）の変化が（B）経済の総需要に与える効果を強調し、（C）の効果を疑問視する学派である。初期のマネタリストは、古典派の素朴な（D）に基づいており、（A）の変化は長期的には名目価格に影響を与えるだけで、産出・雇用量にはほとんど影響を及ぼさないと主張したが、1960 年代末頃からのマネタリストは、ケインズ学派が重きを置かなかった（E）の効果を強調した。ケインズ学派とフリードマン派のマネタリストとの大きな見解の相違は、経済不安定の発生源についての見方の違いにある。すなわち、（F）の見解では、民間部門は本来、安定的なものであり、（G）がその効果を主張する（C）によって総需要を増やしても、低下させることができない自然失業率が存在し、そうした政策はむしろ経済を不安定にするため、（H）を一定にたもつなどの一定の政策ルールが必要であるとする。

	A	B	E	F	G
1	貨幣供給量	ミクロ	財政政策	ケインズ学派	マネタリスト
2	貨幣供給量	マクロ	財政政策	マネタリスト	ケインズ学派
3	貨幣供給量	マクロ	金融政策	マネタリスト	ケインズ学派
4	財政支出	ミクロ	金融政策	ケインズ学派	マネタリスト
5	財政支出	マクロ	金融政策	マネタリスト	ケインズ学派